

ネット世代の特徴と問題点

NIT情報技術推進ネットワーク株式会社

篠原 嘉一

(しのはら・かいち)さん

Q 成年年齢が18歳に引き下げられます。どのようなことが懸念されますか？

A 18歳前後の人は、何から情報を得ているのか？といえば、新聞やテレビではなくスマホです。そして、多くの若者はスマホを使って情報のやり取りをしています。そこで得られる情報は正しいものもあれば、正しくないものもあります。玉石混交の中から情報を選び取らなければなりません。『石』を情報源にした悪い例を紹介しましょう。ある大学生がSNS上で見た「コロナは大丈夫や」と書かれた他人の意見を鵜呑みにして、マスクもせずに夜の街に出かけたという話です。信じられないでしょうが、このようなネット上の意見をニュースだと思っている人がいます。すべてではないにしても、偏った情報に影響されている若者は少なからずいるのが実態です。ネット世代の特徴かなと思います。

18歳、19歳をターゲットにしたマルチ商法の消費者被害が懸念されます。社会経験が浅いだけが問題ではなく、スマホがあればいつでもどこでも簡単に業者にアクセスできますし、その逆もあります。昔のように会場に

出向き、大勢でセミナーに参加する（洗脳される）スタイルは少なくなっているでしょう。いまはリモートで自宅から気軽に参加できるから安心感もあります。部屋にこもって講師のメッセージを聞いたり、親密に話しかけられたりすると、「わたしのこと、すごくかまってくれる人」だと、つい思ってしまうても不思議ではありません。実際、マルチ商法にのめり込んで大学をやめた若者はたくさんいます。来年4月1日からは、未成年者取消しができなくなります。マルチ業者はこぞとばかりに勧誘してくるのではないでしょう。SNS上で散見される「儲け話に安易に引っかからないために、中高生への消費者教育は欠かせません。ネットの中には「金儲け」の成功談があふれていますから。

Q マルチ商法以外で気をつけたいことは？

A ネット上にひどいコメントを書いたり、正しくない情報をあげてしまったりすることによるトラブルもよくあります。グーグルマップの星の評価に「どこそこの店でコロナ感染者が出たらしい——このような嘘の情報

を流した結果、客が行かなくなるわけです。その店から損害賠償請求されても文句は言えません。

こうした記録は消す手段がないのです。書けば書くほど記録が蓄積されていきます。そういう人々には闇サイトから「あなたへのお勧めは悪徳商法のスタンプです」という誘いがくるわけです（笑）。また、露出度の高い姿で動画配信していると風俗店からの誘いや、オーディション詐欺に遭う可能性があります。人を傷つけるような言葉はもとより、自分が将来にわたって「見られたら困るようなコメントや映像は残さない」ことです。それが元で就職や結婚など、人生の節目に悪影響を及ぼしかねませんので注意が必要です。

最後にひと言つけ加えますが、子ども本人が映像を投稿しなくても、保護者が投稿するケースがあります。運動会で体操する子どもの写真とともに「うちの子、がんばってます」みたいなコピー入りで。これを悪意のある者が、画像を加工して「アダルトサイト」の待ち受け画面に使ったり、その子が誰なのかをネット上の誰かが捜しはじめたりしますので用心してください。